



## 利用者のさまざまな状態に合わせて 介助のできる工夫がなされた施設。



各階に設けられた浴室。浴槽の左右にスペースがあり、利用者がトランスファーボードに座って浴槽に移乗するなど、さまざまな介助が可能である。浴槽は沈み込みを防ぐ形状で、リラックスできるアームレストや、立ち上がりをサポートするハンドグリップ付き。利用者の動きに合わせて手すりも設けられている。

2015年5月、新潟市内に開設されスタートした、特別養護老人ホーム くりの木。特別養護老人ホーム、ショートステイ、小規模多機能型居宅介護、グループホームが一体となり、在宅でも入所でも、利用者のさまざまなニーズに合わせて使うことのできる、まさに地域密着型の新しい施設です。慣れ親しんだ地域で、たくさんの人の「とびきりの笑顔」が見られるように充実の施設と細やかなサービスで、暮らしをサポートしています。



T字型のフォルムが特徴的な3階建ての施設。

### 在宅でも。入所でも。柔軟な利用を 可能にした地域密着型の複合施設。

新しい施設の1Fには2つの機能があり、1つは登録制で自宅からの通いを中心としながら宿泊も可能であり、スタッフが自宅に訪問してお世話することもある小規模多機能型居宅介護「マロニエ」。もう1つは認知症の高齢者が暮らすグループホーム「こもれびの家」になっています。2Fの特別養護老人ホーム「くりの木」は、自宅では介護が困難な要介護3以上の方が対象。1つのフロアが9~10人単位の3ユニットに分かれ、居室はすべて個室という環境で、少人数制で家庭的な雰囲気の介護が行われています。そして、3Fのショートステイ「くりの木」も、全室個室の3ユニットとなっています。

浴室などには、利用者はもちろん介助者の負担も軽減するような工夫がなされ、安心・安全をサポート。手すりなどによってスムーズに利用できるアプローチにも配慮されています。



各階には機械浴室も設けられ、1Fではリフトで入れる介護浴槽を採用している。

#### 特別養護老人ホーム くりの木

- 竣工年月/2015年2月
- 所在地/新潟県新潟市中央区本馬越2-15-34
- 施主/社会福祉法人 苗場福祉会
- 設計/株式会社たなか建築設計
- 定員/地域密着型特別養護老人ホーム 29名  
ショートステイ 29名  
小規模多機能型居宅介護「マロニエ」登録 25名、宿泊 9名、通い 15名  
グループホーム「こもれびの家」 9名

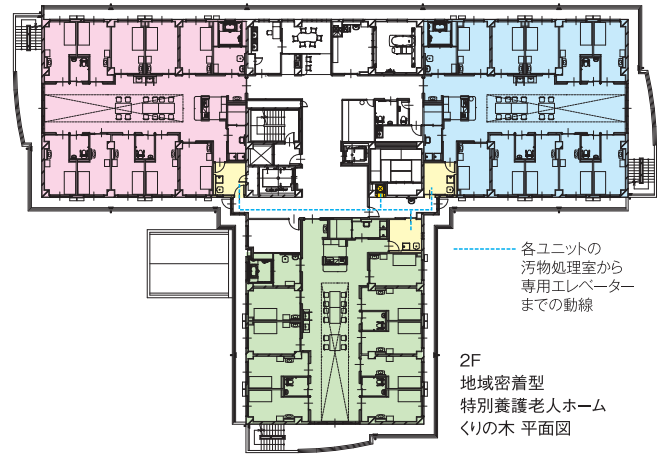


オストメイトへの配慮もある、十分な広さを確保した1Fの多機能トイレ。入口扉には2枚引戸を採用している。

## 見守りや介助のしやすいレイアウト。 感染対策を考えた汚物処理動線も。

建物がT字型であり、1フロア3ユニットでホールが中央にある、機能的で訪問者にもわかりやすいレイアウト。トイレは1ユニットごとに3カ所ずつ配置しています。汚物処理室も1カ所ずつあり、汚物処理と入居者の動線を完全に分離。感染対策に重要な、部屋やフロアの温湿度管理も重視し、場所によってエアコンの大きさを変えるなど徹底しています。

トイレはできるだけ多くの数を確保し、前方アームレストや手すりなどを設置。前方アームレストは座位の安定とともに、前に寄りかかる姿勢をつくることで、腹圧によって自然に排便を促すこともできます。



ユニット中央に設けられたホールは、リビング・ダイニングの役割を果たしている。洗面カウンターは車いすでも利用しやすい。



壁紙が柔らかな雰囲気のトイレ。前方アームレストや跳ね上げ手すりなどがあり、縦の手すりは車いすからの立ち上がりにも有効。



ユニットの個室。センサー式の手洗器は、すぐに湯が使えて快適に利用できるように電気温水器付きになっている。

### Voice 施設長さんからの声

本当は人によって、いろんなトイレがあるといいですね。



特別養護老人ホーム くりの木 施設長 田村みゆぎさん

トイレの空間は、それぞれの人の状態によっても使いやすさが異なってきます。広い方がよい場合も、狭い方が自立して使いやすい場合もあります。だから本当はいろんなトイレがあればいいと思うんですね。入浴については、日本人は湯船につかることがお風呂だと思われる方も多いですし、長年親しんだ四角形のお風呂に入ることで、記憶を呼び戻すようなこともあります。そんな入浴をサポートできる浴室になったのはよかったですね。



スタッフが一人で落ち着けるように配慮し、ブースが並んでいるトイレではなく、独立した一人使用のスタッフ用トイレを多く確保している。



昼はお茶やコーヒーの飲める喫茶コーナーであり、夜はリラックスしてお酒の飲めるバーカウンター。家族との歓談にも利用されている、おしゃれな空間である。

### Voice 介護福祉士さんからの声

浴槽のまたぎをサポートできます。



特別養護老人ホーム くりの木 介護福祉士 木村将博さん

当施設の浴室は、浴槽の左右に空いているスペースがあって、そこにちょうど入る可動式の台に座ることで、腰掛けた状態からの入浴ができます。脚を持ち上げて浴槽をまたぐことができなかつた人でも無理のない動作で入浴でき、機械浴に頼らなくてもいいのはうれしいことだと思います。

### Voice 介護福祉士さんからの声

介助のしかたは一人ずつ違います。



特別養護老人ホーム くりの木 介護福祉士 吉澤瞬さん

ご利用される方は一人ひとりみんな違いますし、どちら側に麻痺があるかでも、トイレにおける介助のしかたは異なってきます。その人にとってどう介助すれば楽に使っていただくか、そして安全につながるかなど、いつもチームのみんなと話し合っ、いちばん良い方法を検討するようにしています。

### Voice 設計担当の方からの声

スタッフの歩行性も考えています。



株式会社たなか建築設計 酒井篤さん

床材には、スタッフの歩行における足腰への疲労負担を少しでも軽減できるように3.5mm厚のクッション性のあるものを採用。もちろん転倒対策にも配慮しています。また、動線計画から徹底的な感染対策を施し、電気や水道は非接触のセンサー式にするなど、きめ細かな部分にもこだわっています。